

立岡脩一 市長が初登庁

みんな元気で、なかよく、
しあわせ福祉都市を
つくろう



歓迎の花束を手にする立岡市長

瀬戸内市の市政の舵を取る瀬戸内市長選挙が12月5日、市内19投票所で行われ、開票の結果、立岡脩二さんが初代市長に当選しました。

6日、瀬戸内市役所本庁舎に初登庁した立岡市長は、大勢の市職員に拍手で迎えられ、女性職員から歓迎の花束を受け取りました。その後、就任式では、「合併協議で積み残した諸問題を解決し、全国に発信できる『しあわせ福祉都市』を築いていきましょう」とあいさつし、初代市長としての決意を語りました。

幸せ実感できる瀬戸内市を目指して

瀬戸内市長 立岡脩二

12月6日、瀬戸内市の初代市長に就任させていただきました。改めてその重責に身の引き締まる思いです。よろしくお願いいたします。

私は選挙戦を通じて「みんな元気で、なかよく（協力して）まちづくり、人づくりをしていきましょう」と訴えました。

地方自治の大きな目標は、住民の「幸せ（福祉）」づくりです。考えてみると、「幸せ」感は、人によつて千差万別です。しかし、だれにも共通して言えることは、まず「元気」であること、「なかのよい」ことではないでしょうか。

人が元気で、なかのよいこと

子どもからお年寄りまで、男性も女性も、健常者も障害のある人も、みんな元気でなかがよいこと。みんな生き生きと学び、働き、協力し、さらには安らぎと喜びを分かち合える人が住む都市（まち）。

まちが元気で自然となかのよい（共生）こと

海・山・川・平野、豊かな自然環境

と共存し、歴史・芸術・文化の薫り高い都市（まち）。また、全国に開かれ、大勢の人や物・情報が行き交い、にぎわいのある都市（まち）。

産業が元気でなかのよい（バランス）こと

恵まれた自然と豊かな経験を有する農業・漁業が、消費者のニーズに合った産物を持続的に提供し、高い付加価値と競争力をもつこと。一つの業種に集中せずバランスよく工場が立地し、商工観光が元気で雇用の確保や若者の定住ができる都市（まち）。

市役所（行政）が元気でなかのよい（協働）こと

地方政府が自分で責任を持ち、自分で決定していく時代です。地域の独自性を生かした政策を創造し、実行していくとともに、職員は常に自己啓発に努め、積極果敢に行財政改革に取り組むこと

重点プロジェクト計画・検討からスタート

重点プロジェクトは、新市の建設設計で約100以上の政策が立てられている中で、特に重点を置いて取り組むものです。

初年度は、計画や検討するところからスタートします。まず、市の総合振興計画と行財政改革大綱の作成です。

いずれも経費やタイムスケジュールが決められたものでなくしてはなりません。

○健やかに暮らせるプロジェクト

・元気高齢者づくりのための介護予防施設などの充実とソフト事業

・公立病院などの今後の方についての検討

・子育て支援センターの整備

・知的障害者厚生施設の整備

○ゆとりと潤いのあるプロジェクト

・公共下水道・農業集落排水の整備

・南北幹線道路のルートの検討

・CATVや無線アクセスシステムなどラストワンマイルの導入検討

・スポーツ振興計画の策定とスポ

ツ施設の充実（スポーツ立市）

○輝きのまちプロジェクト

・生涯学習センター整備計画の検討

・観光資源のネットワークや観光機能の充実強化（交流人口100万

人計画）

・合併市町村振興基金事業（新規イベント事業など）

・JR各駅周辺の整備計画

○教育関係

・生命を大切にする教育を瀬戸内市の教育の基本とし、モラルの高い人づくりをする

・国際交流や国際貢献を通じ、視野の広い国際感覚を養う

・そのほか、新市にかける夢を話し合

う地域懇談会（仮称）、市民の提案を

政策に取り入れていくシステム作り、男女共同参画・条例策定・文化芸術の振興など、新市のスタートとして取り組むべきものはたくさんあります。市

民の皆さんと話し合い、考え、共に行動し、元気で清潔で思いやりのある市

政を実現していきたいと考えています。

みんな元気で、なかよく、幸せが実感できる瀬戸内市を目指して頑張ります。